

## 技術とイノベーションのマネジメント

長内 厚 教授

Email: osanaia@waseda.jp

### 1. 担当教員の専門分野(研究領域)・現在の研究テーマ

専門は経営戦略論をベースとした技術経営・イノベーションマネジメントの領域で、探索的な定性研究を得意としています。ソニー株式会社で10年間事業部の商品企画・技術企画業務を行った後に、大学院で博士を取得後に大学研究者になった経歴から、製造業や技術を活用する企業の戦略や技術開発、製品開発、顧客価値創造のメカニズムの研究を中心に行っています。経営学は実学であり、技術経営論の藤本隆宏先生は「理論と現場が乖離したら現場とれ」と言いましたが、現場を丁寧に見つめることで、なにか新しい理論的な発見がそこにあると考えています。経営の現場を大切に、精緻なだけでなく、面白い研究を行いたいと考えています。現在の研究テーマはR&D組織と市場との統合、顧客価値創造におけるR&Dの役割、イノベーションマネジメントにおけるダイバーシティ&インクルージョンの戦略的意義、オープンイノベーションにおける多様性などについて研究行っています。

### 2. 指導方針

本属はビジネススクール(経営管理研究科)で、MBAでは実務へのインプリケーションを大切にしている教育を行っていますが、本専攻博士後期課程では高度な理論的貢献を果たしうる定性研究の方法を身につけたうえで、経営学に対しても実務に対しても示唆に富んだ博士論文の完成を目指します。また、戦略を研究対象とするだけでなく、院生自身の研究戦略を考え、効果的、効率的な博士論文の完成を目指すことを指導方針としています。そのため、すでに執筆した修士論文は、できるかぎり、最短でジャーナルに投稿できるレベルに加筆修正し、博士論文を構成する業績とすることを目指します。また、博士論文研究にあたっては、商学研究科の博士論文提出要件を満たすほか、主要な経営学学会で2~3本の査読付き論文を執筆することを求めます。

### 3. 学生に対する要望・その他

指導希望の学生は受験前に必ずコンタクトをとり、分野適合性など指導可能かの確認を取ってください。

実務経験の有無にかかわらず、ビジネスの現場で起きている事象に対して謙虚に接し、社会の複雑な因果関係を丁寧に紐解くことで、新たな理論的発見を目指してもらいたいと思います。博士課程の指導は指導教員との一対一のピアレビューによる評価の連続になります。受け身の姿勢では学位は取得できません。常に緊密に指導教員とのコンタクトを絶やさず、研究の進捗や悩みを積極的に相談することをお願いします。悩みを抱え込むのではなく、悩んだら相談をする積極さが重要です。

指導では厳しいコメントをすることがありますが、くじけない、あきらめない粘り強さを持った院生を期待します。自分の研究をあきらめない姿勢が大切です。すべての研究は本人がそれを面白いと思ったから始めるものです。世の中に面白くない研究はありませんが、面白さが伝わりにくい研究はあります。厳しいコメントは皆さんの研究の面白さを引き出すための指導であり、その繰り返しが良い研究を生み出しますので、根気強さが大切です。

最後に効率的な博士論文完成とは若干矛盾するお願いですが、研究者として経営の現場との結びつきを多く持つことは今後の研究データの取得にとっても大切です。WBS(ビジネススクール)のMBA学生のゼミとの交流も盛んに行いますので、研究調査のためのネットワークづくりに積極的に活用して下さい。